

## 学校関係者評価報告書

御茶の水美術専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人服部学園 御茶の水美術専門学校における平成 27 年度自己評価報告書に基づき、学校関係者評価委員会を開催したので、つぎのとおり、報告いたします。

1. 開催日時 平成 28 年 2 月 25 日 (木) 10:00~11:30
2. 開催場所 学校法人服部学園 3 号館 6 階会議室
3. 出席者

### 【学校関係者評価委員】

委員長 (互選選出) 松代隆子 公益財団法人日本科学協会 アドバイザー  
委員 安藤秀一 (株)スワン 代表取締役社長  
櫻井裕子 (株)シグナリー 代表取締役  
堀田康彦 (有)藪蕎麦 代表取締役  
(欠席) 木村 進 (株)パジコ 代表取締役社長

### 【学校側事務局】

服部浩美 御茶の水美術専門学校 校長  
服部 元 御茶の水美術専門学校 副校長  
清水 眞 御茶の水美術専門学校 アートジム長  
若松久資 御茶の水美術専門学校 総務部長

4. 議事経緯 学校側事務局より、平成 27 年度自己評価報告書の概要をもとに、今年度の取組みとその進捗状況および今後の課題について、つぎの重点取組 3 項目を中心に説明の上、委員会の方々に審議いただいた。
  - ①今年度より変更した学則と認定を受けた職業実践専門課程に沿った運営
  - ②自己点検からの PDCA サイクル活動の定着
  - ③学園創立 60 周年を機とした教育理念の再確認

### 5. 評価結果

#### 【総合評価】

学則変更と職業実践専門課程の認定を受けた初年度として、その適切な運営・定着に取り組んだこと、また学園創立 60 周年にあたり、教育理念をあらためて再確認する活動に取り組んだことは、時宜を得たものであり、その進捗もほぼ目標を達成したものと評価する。

今後の取り組みについては、引き続き職業実践専門課程に準拠した運営、自己点検からの PDCA サイクル活動の定着に向けた取り組み、従来の教育理念の深化を図ると同時に、グローバルな視点に立った教育カリキュラム、海外や外国人とのコラボレーションができる人材の育

成、日本のアートやデザイン能力を活かす観光業などとの企業連携、卒業生の起業に対し専門家がサポート・バックアップする体制整備、千代田区との地域振興活動、区内居住学生や地域の大学生との交流など、グローバルにも地域にも開かれた教育理念の強化と実践を期待する。

【大項目ごとの実績・評価と今後の取り組み】

評価項目	実績・評価	今後の取り組み
1.教育理念・目標・育成人物像	60周年にあたり、創立者の軌跡や設立趣旨等を考察し、教育理念の原点を再確認した。教職員一同で共有するとともに、記念展やホームページで公表した。	再確認した教育理念の原点を、教育目標や指針、育成人材像、教育カリキュラム等に具体的に反映していくことを検討する。
2.学校運営	職業実践専門課程に準拠して、教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会を運営した。	自己点検からのPDCA活動を基本とした学校運営を定着させる。
3.教育活動	変更した学則に沿って、企業と連携した教育カリキュラムの編成、実習・演習等の実践、教員研修を実施した。	新たなニーズも捉えた教育カリキュラムや体系的な教員研修体制等を検討する。
4.学修成果	就職率の向上に向け、キャリア教育に加え、インターンシップへの参加について活発な支援活動を行った。	起業支援等、キャリア教育の内容拡充を検討する。
5.学生支援	公的な奨学金制度の申請手続と独自の奨学金制度により、経済的に困難な学生への支援を継続的に行っている。	卒業生への支援体制拡充を検討する。
6.教育環境	ノートPC・Wi-Fi等の充実した機器・設備を活用する学生のスキルアップを指導した。	耐用年数等を検証し、計画的な施設全般の安全・防災対策を構築する。
7.学生の募集と受入れ	引き続き、高校生を対象とした体験授業や高校教師を対象とした研修会等を積極的に開催した。	高校や高校教師向けに加えて、学生本人に直接届く情報発信を検討する。
8.財務基盤	安定した財務基盤を確保しており、毎年任意で監査法人監査を受け、適切性や健全性のチェックも行っている。	H28年度からの学校法人会計基準改正に対応する。
9.法令等の遵守	定例の活動として、教職員への法令等遵守の注意喚起を行った。	コンプライアンス研修の実施を検討する。
10.社会貢献・地域貢献	千代田学等、千代田区と連携した活動を拡大した。 また、陸前高田には引き続き、復興支援としてロゴの提案等を行った。	学校だけでなく学生本人にも、地域等への積極的な関与の推奨を検討する。